# 一般社団法人　西新井法人会　会長賞

## 「税金という命綱」

足立区立　第七中学校

三年　望月　英人

みなさんは、税金を払いたくないと思ったことはあるだろうか。中学生自身が負担する税金といえば、消費税である。この消費税について、前回の衆議院選挙では、消費税の減税や廃止を訴える政党が多く見られた。「消費税廃止」と聞くとうれしくなるかもしれないが、僕は消費税は必要な税だと考える。

国の収入の大きな割合を占めているのは税収だ。また、僕たちに関わりのある消費税はその中でも重要な財源の一つである。これらのお金はどのように使われているのだろうか。そう考えながら調べていると、「熊本県で震度七の地震が発生した」というニュースを目にした。道路や歩道橋には亀裂が走り、ショッピングモールでは爆発が起こり建物の骨組みがむき出しになっていた。翌日、ニュースには現場で懸命に救命活動を行う消防や警察、自衛隊の方々が映っていた。これらの方々の活動は、税金によって支えられている。僕たちが納める税金が、巡り巡って人々の命を救う活動に使われていることを知った。さらに調べてみると、地震で生じた道路の亀裂や建物の損壊の復旧だけでなく、今後の復興にも多くの税金が使われる。税金は、人々が日常の生活を取り戻すための大きな力になっているということを知った。「被災地や被災した人々を支えるために欠かせないもの」これが税金なのだということを実感した。

近い将来、南海トラフ地震や首都直下地震が来るかもしれないと言われている。どちらも自分の生活に直接関わってくるであろう大きな地震であり、被害も莫大なものになるだろう。特に首都直下地震は、建物の倒壊、市街地火災、停電など、調べてみると恐ろしい被害想定が発表されている。防災に対して日頃から意識することは大切だ。そして、これらの災害時にも税金という支えがあるのだと知って、安心できると思った。

税金が正しく使われることで、被害を最小限に抑えることができる。では、税金が無かったらどうなってしまうのか。医療や教育、街の整備にお金がかけられなくなり、今よりも不便な生活になるだろう。しかし、税金が無くなって一番困るのはやはり災害時だと思う。警察や消防に助けを求めることも難しくなり、建物や街の復旧や復興も今まで通りには行かなくなってしまう。税金という命綱がなくなると、多くの人が困ることになるだろう。だからこそ、税金は正しく、そして公平に使われなければならない。

今僕が負担する税金といえば消費税くらいだが、大人になるとたくさんの税を納めなければならなくなる。そのとき、税金によって救われる人もいるのだということを忘れず、税に対する正しい知識を持ち、社会を支える一員として誇りを持って納税できる大人になりたい。